

8. ブドウのカンザワハダニに対するコテツフロアブルとバロックフロアブルの適用			
[要約] <u>コテツフロアブル及びバロックフロアブルはブドウのカンザワハダニに対して高い防除効果がある。</u>			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0271(内線 240)

[背景・ねらい]

ブドウのカンザワハダニに対して効果的な登録薬剤が少ないため、コテツフロアブル及びバロックフロアブルの防除効果を検討し、ブドウへの適用拡大を図る。

[成果の概要・特徴]

1. コテツフロアブル 2,000 倍液及びバロックフロアブル 2,000 倍液散布はカンザワハダニに対し、対照のケルセン水和剤 1,000 倍液と同等の高い防除効果が認められた（表 1～4）。
2. 両剤とも散布によって葉に薬害は認められなかった（表 1～4）。

以上の結果、コテツフロアブル 2,000 倍液及びバロックフロアブル 2,000 倍液散布はブドウのカンザワハダニ防除剤として実用性が高い。

[成果の活用面・留意点]

1. コテツフロアブルはチャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイにも登録があり、これら害虫の防除にも使用できる。適正使用基準は収穫 14 日前まで 2 回以内である。
2. バロックフロアブルは成虫に効果がなく遅効的なので、発生初期に使用する。適正使用基準は収穫 7 日前まで 1 回以内である。
3. 両剤とも天敵（カブリダニ類）への影響が少ない。
4. 果実肥大後の散布は果粉が溶脱するおそれがあるので、両剤とも幼果期までの使用にとどめる。
5. 抵抗性発達を避けるため、両剤ともハダニ類に対しては年 1 回以内の使用とする。一部地域のナミハダニでは、コテツフロアブルに対して抵抗性が発達している。

[具体的データ]

表1 カンザワハダニに対するコテツフロアブルの防除効果（平成7年）

供試薬剤	希釈倍数	10 葉当たり雌成虫数					薬害
		散布前	4 日後	7 日後	14 日後	21 日後	
コテツフロアブル	2,000 倍	318	0	0	11	74	☒
ケルセン水和剤（対照）	1,000 倍	451	1	1	52	262	☒
無処理	☒	321	505	649	1359	1492	

品種：マスカット・オブ・アレキサンドリア。
7 月 27 日散布。

表2 カンザワハダニに対するコテツフロアブルの防除効果（平成9年）

供試薬剤	希釈倍数	10 葉当たり雌成虫数					薬害
		散布前	4 日後	8 日後	14 日後	21 日後	
コテツフロアブル	2,000 倍	117	0	0	3	27	☒
ケルセン水和剤（対照）	1,000 倍	137	3	15	20	38	☒
無処理	☒	123	152	278	318	108	

品種：マスカット・オブ・アレキサンドリア。
7 月 31 日散布。

表3 カンザワハダニに対するバロックフロアブルの防除効果（平成10年）

供試薬剤	希釈倍数	10 葉当たり雌成虫数					薬害
		散布前	3 日後	7 日後	14 日後	21 日後	
バロックフロアブル	2,000 倍	563	70	13	0	0	☒
ケルセン水和剤（対照）	1,000 倍	611	1	0	0	0	☒
無処理	☒	674	303	156	27	42	

品種：マスカット・オブ・アレキサンドリア。
8 月 7 日散布。

表4 カンザワハダニに対するバロックフロアブルの防除効果（平成11年）

供試薬剤	希釈倍数	10 葉当たり雌成虫数					薬害
		散布前	3 日後	7 日後	14 日後	21 日後	
バロックフロアブル	2,000 倍	658	435	125	0	0	☒
ケルセン水和剤（対照）	1,000 倍	759	0	0	0	0	☒
無処理	☒	709	511	429	155	41	

品種：マスカット・オブ・アレキサンドリア。
7 月 26 日散布。

[その他]

試験研究課題：果樹主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験

予算区分：県単

研究期間：平成7～11年度

関連情報等：なし